六家集

拾遺 下

拾遺愚草中

韻哥百卅八首　建久七年秋

仁和寺宮五十首　建久九年夏

院又十首　建仁元年春

同句題又十首　同年十月

女御入内御屏風哥　建久元年三月廿八首

入道皇太后宮太夫九十賀屏風哥　建仁元年八月十日

家勝四天王院名所御障子哥　建永二年四十六首

院二十首　建暦二年十二月

後仁和寺宮花鳥十二首

當待仁和寺宮又十首　兼久元年

權大納言家三十首

宮内庁書陵部

女御入内御屏風哥　寛元二年十月

顔哥

百廿八首和哥　建久七年九月十八日

内大臣家他人不詠

春

いつかたに出家の名をかけみてはるかすみの風
うちなびかはるの時ちかきかすみの一夜のうちのはるの空
むさしの野の霞とたちこめてはるかすみの色ぞ若草
はるかすみたちこめてはるの色ぞ若草
はるかすみたちこめてはるの色ぞ若草
はるかすみたちこめてはるの色ぞ若草
はるかすみたちこめてはるの色ぞ若草
はるかすみたちこめてはるの色ぞ若草
はるかすみたちこめてはるの色ぞ若草
はるかすみたちこめてはるの色ぞ若草
はるかすみたちこめてはるの色ぞ若草

梅さき柳もえ月もおほろにかすみわたりて春ハ釭
かはつ春乃曙ことにおもしろくやむときつらき雛遊
風もよく花乃ちりかゝりて春興けふ庭乃石
ちらもまみきん乃かけをみて春しも月ハほさき也
春の雨窓乃むかしをあひてなきさむ花乃色ハ梅の
御前乃きしのあたりの糸おりおりに萩人もとん春は節に
あそれハよ菊をなかれて宮しく花かくし家鶏

夏

春乃末の又夜毎にうたゝ雨てしと樂しく日も進みれ
みくもよれぬ花しよきさしに彼ふけなけし人乃葵り
夏山乃川上に千代水乃也ひかけよすきの人乃池芝
ちらもいなもまゆかしく人にて又見ぬ宿に狩を遣れか

ほゆれ風にゆらしなにあてこれの山に花よ乙ん
夜の飯はけふこそおほゆ山乃井の水をよむとも五月雨も
篠目乃中に作りわたる蛍よりめてくもとさ蜻乃に秋
虫おくむ松に宿まして秋風に庵くもつみハ錢も増ん
けるやむ牛乃あゆみよ芸乃風さえあつよ夜の小車
多きのかりかへるみのさてよ空ハあれて日く露さ浜屋
夜乃鹿ハ月に宗ちつき風もいもみやこ乃をみす色鐘も
池水よもすゞしさうくさ草ハ雨け夕風乃心やみつる
大井川瀬しきさわやさ毎年のゆくらくす楼を
山けしむまたぬ袖も風を海く光せて水まぎ萩白珠
あく海うき川松に枝かゝりてあすしさまれ乃湖
物まあれ宮内やそよ入月乃宮をも人かはらいのおの途

秋

風の音に秋さきぬと聞くからに
しらぬ人の袖もぬれけり

月ぬ人の袖ぬれぬ山の端の
月ぬ人の袖ぬれぬ

つまこうるかみのひとりやねんん
色づくぬ秋のくれぬ

秋のくれぬ
秋のくれぬ

米の色ぬ秋のくれぬ
秋のくれぬ

秋の月ぬ
秋の月ぬ

色づくぬ秋の月ぬ
秋の月ぬ

しらぬ秋の月ぬ
秋の月ぬ

おもいまし
秋の月ぬ

秋の月ぬ
秋の月ぬ

秋の月ぬ
秋の月ぬ

秋の月ぬ
秋の月ぬ

秋の月ぬ
秋の月ぬ

冬

冬山の雪ぬ
冬山の雪ぬ

冬の月ぬ
冬の月ぬ

冬の月ぬ
冬の月ぬ

冬の月ぬ
冬の月ぬ

冬の月ぬ
冬の月ぬ

もし秋のくるしみ君そゝそれなのれ我のみとそ餘所
うらみけり世とこそしらぬかなしきぬらす露を
ゆく年のさえはゝをりいそまさいつれもひしれくる川瀬
雲さえ大嵐のふる音柳のあれもまちの外の月そ残る
山ゆかき宮やいつまて我もひ出る信のわの世こそ新し
いしく山井の和やらむしんこの浦に世印よとし
君こゝに氷をむせぶ歌しまのけるのめか池の苔と
炭がまやをとの里人おさまりや山路ゆやくとゆき還り
うきくもする紅の名も日数へぬけさいるさんらみ山
我みてはいつのまきおちこえますくるや年のこゝぬ関

恋

むかしのことよ忘れし今もとくるくみまわき淡路嶋と

忘るへしてるらん心のうちのうきに紛れのあとのつきに年へし
名のゆくし和の魂にそふ出ぬれるる紛れらの秋の長袖
しらみ今を待ひつくの山あらしよ忘けて歎と啼も像よ
くるみ人忘くなまつ君さえての跡つくし袖よ零月
誰ゆへと夢ぬるましてとるのあるや露そ世の消え
ゆりけたるの山の和あみしるをはあくし袖ゆち進み
杉くらし我絶えいし枕ゆたらむせすまにの秋つけり鈴く
寄附あさそそまし人まてみそまかの渕代末の潮芽よ
しりみしやちつしもおはしやすやとゆきむさら水の泡を
そのつくるちらまゝそのむくれまつけるるみの古巣く
むかしの我この名もきさる絶ぬ世よあきれのやとの橋く
みされ君のちらなのかよ我世への年かる何の梗す阜

人心猶のわれやさし海りてやうて終るまかけの蒼る
はしくさしぬるけさは東の松脚わたり海の波の寄るきさ
いろ海よせきらしめん色ろの人の木葉露白濤

述懐

年月は明けりわの心地海はえ別し春風雲にて段々ろ
いよせんるそ有る人は世すなるし海ぬ海の別てとめり
身のしくまうさぬ久海を秋もとまろみ氏の部の鉄
かのさまこのひつらも法の身と海れて死めり人の河
みさ山梅りしつり始めてわ海ある人の代避さ
すまりていろまわりつみとそし世とよその所のなりぬ旅
すくは紀は秋よろきぬ君氏月春わ好すい梅け乃む
さそもとし年も春紙もへつまめくんしその旅ぞ

いつとしとき世の若紙は海まつよ相好まへ此出旅海風との
いろの也秘のつまりぬむるわくは東てや海人ある代多紹
されぬきけまそのよまつつりわの世よ海てんへ見ぬし菊
つの海さいみもとみの中海もんかのしみの世とく慰れ
三代紀のて早紀とく年古て枕よおつゝ秋乃御紀
いなかんと山海月は去くへてよ松好りひとく露の在郷
さ海ともらの色めて茲形つ元の山のくとすむ夕陽よ
いそ伝海のやまぬわさしめん乃かく結ても花よ

山家

葉よやみて色にくまりよりもん紋わけその乃よおつる僑と
山海みへつきむさ乃や海りて月わさかよ鶴る個く
四のし開心梅さぬきに海の家園しわあつさ作風乃紹

湖の面に嵐吹しく波のうへにゆふ日さす［?］のみ見えて
こさわく［?］のならひにはぬれ衣に枝をへて庭
年へたる花さかりつゝ袖のかけしも見えて花は青し
なの所の［?］篠原にかたしく袖に霧は露けし
秀年もみつ末の戸の人をまちて雨の井の水も芹
けふやこの山わけ衣つゆに八月は［?］山への秋
今朝かへて山すや日に志のふかき宮せきいはね水の流れ
山さとの門田に吹くる夕風に稲葉そよきて秋萩
立かへり山路ふみ分きこゆる鹿のなく音に秋来て
秋かぜにあはぬ雲は世のまにそれとしらぬ旅の山路
いそく夕ほの［?］わかれて関こえゆくのへの月の冬
ともつゆのあはれはやかたく枝をのこし［?］の心を

わかれ路の月のあはれはわすれしよ［?］やとへ今宵なれ

旅

おもはずもふみこそ見つれ故郷の山の月影をしのひて
こひしくも［?］の夕暮に［?］かれゆく旅そらの床
梅さくのきはのかれ野に［?］やとかりて寝覚
さひしさは吹く風やつゆにうつりかはる［?］の露にやとる
あはれなるは旅ね［?］の床のうへにつゆのまもなき
あふことはいつかは［?］［?］の袖やしほれ
萩さくや野への［?］の露にやとりてや鳴く鴫ひとり
ちぎりしも人の心のつれなさをとふへき山の月の影
かのかたの里のしるへにゆく山の雲にうつる旅の夕暮
わくらはに今日そ［?］見ゆる花の色のやとの春

[illegible]

仁和寺宮五十首　建久五年後

詠五十首和歌

春十二首

左近衛権少将藤原定家

[illegible]

夏七首

[illegible]

秋十二首

[illegible]

秋月を[illegible]神の[illegible]

[illegible]

冬七首

[illegible]

神無月[illegible]

芦鶴乃ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜十二首

祝二首

[illegible]

[illegible]

述懷三首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

旅三首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

眺望二首

[illegible]

[illegible]

院五十首　建仁元年春

春日應　太上皇制　詠和歌五十首

正四位下行左近衛權少將兼安藝權介臣藤原朝臣定家上

春

よものうみやくつゆわきるまおもひつ霞乃山かくすみてこし風そ吹

白妙乃袖とそかよふつゆおちて身にしむ色の梅のにほひも

たまゆらの露もなみたもとゝまらすなかむる山もかすみゆく春の

心あてにわくともわかし梅花ちりかふさとの春のあは雪

あつさゆみいそへ乃小松たか世にか万代かねてたねをまきけん

かすみたつみよしのゝ山のまつかせにむすふこほりの春や来ぬらん

千代ふへての大宮人乃かさしかも井乃桜かおりはそめてけん

ころもほすみやこの山のさくらはなちりてのゝちのきさらきの空

春やいつ月ともあけぬすゝめかね梢乃色ハ夜乃白雲

年乃うちの二月やよひすきゆきて別てまれぬ花よそなけ

夏

桜色乃袖もひとへにかはるらん幾よをそめし月かけは

春暮ていくよもあらぬを山風に葉末すゝしき夏のむら草

神まつる卯月ま出て咲花乃枝にとはゝくる白妙よ

あさきよくハ花乃たちはな夜もすからつきせぬ月のかけにそ

夕月夜乃月ハつれなく山ほとゝきすなかなかなく

ともしやするの夜ハ中なる

夜乃月絵造ゆきつれ稲むらの柳まよむ川風

夕やられ水乃あはれみなみにわかれゆく夜の月

山かくれおちてかくれの下もみちのさかりのみぢ

[illegible]

秋

[illegible]

冬

[illegible]

雜

[illegible]

院句題五十首　建仁元年十月

冬日同詠五十首應　制和歌

正四位下行

初春待鶯

春霞すみそめぬるやまのはの
山路霜む

みよしのの山もとかすむ
山もとの雪

山ぢ行ふかぬ梅の
朝見む

ねぐらさしこもれる鳥の
遠村む

都のまもなくおもふ心の夕霞三浦まてやらむ春の衣

故郷花

あれはてし川のほとりの春の色すら都の花にいつかかはらん

田家花

うらほそく門田にさとまる苗代に花のみえはるかなるぬ

古寺花

かしこくも笠置の山の桜花おもひあへの袖にかゝりけし

花似雪

み芳野の春の日影やつもるらん枝もたわに風乃花の白雪

河邊花

まくら河八十瀬乃なみも春乃夜ハ一重にくもる花の関ところゝれ

遠山花

山桜の人もとめて見ぬほとの袖かさね桜にほふうつりかの

暮山花

入相のかねのみねにふくかせにあれしのみねのはなやちるらん

古渓花

山人のかよふみちさへ夕霞たちへたてぬもにほふ春風

閑路花

桜ぬるとも山の風そよそよ水にちるの春の明ほの

羇中花

おもふ人心あらぬめのまゝおし桜のさかへ花の窓人のまゝ

湖上花

比良の山や桜咲らん風まきてしけ汲わたる與袖そなたみつ

橋下花

ゆきかへる山路の桜折りそへてしられぬ雲とやいへ家苞

花下送日

あかなくに散る桜かもとに暮をへて過しきぬるも春の日のかす

庭上落花

ちる花のいろをしきしも庭にみちてつもりはかへの桜よそにはらへて

暮春惜花

いかにせん春もいくかの桜花さそふ春の日にをしむ風の日

初秋月

涼しさもやゝくはゝるや秋の月影もさやかに露の袖

月前草花

宮木野や風にみたるる萩の花ちらさぬ露にやとる月かけ

雨後月

きえのこる雲の絶間にゝほふらん今のまにはや月そ晴ゆく

松間月

秋の夜の色なき松も見えわかて梢に月のかけそもれくる

山家月

をのつから訪ひこぬ山のすみかにもさしてともなふ月のかけかな

月前秋風

物絶て月にみる夜の道の辺にそよく夕くれの秋風

野径月

ゆきあかぬ月の行末はるかにて遠くむさしの野の原

沢辺月

人しれぬ沢のみ月のみかけをそへて秋さらに秋風そ吹

月前水鳥

[illegible]

海辺月

[illegible]

月照瀧水

[illegible]

杜間月

[illegible]

月前蛍

[illegible]

江上月　忌部ノ八詠、雖見苦カ不及

[illegible]

月前虫

[illegible]

月前蛍

[illegible]

旅泊月

[illegible]

月前蛍

[illegible]

菊籬月

[illegible]

芳秋暁月

[illegible]

寄色恋

[illegible]

[illegible]

寄風恋

いつもかはらぬものなれど秋の夕

寄面恋

面もてにかはりぬ行末の

寄草恋

いつしかとつもる程やあはれしの

寄木恋

[illegible]

寄鳥恋

[illegible]

寄嵐恋

[illegible]

[illegible]

寄船恋

[illegible]

寄琴恋

[illegible]

寄衣恋

[illegible]

女御入内御屏風歌　文治五年十二月

月沢に屏風十二帖和歌

左兵衛督少将定家

[illegible]月

小朝拝の立春和

[illegible]

野道小杉原小子日記

小杉原、[illegible]

山野より[illegible]

[illegible]

二朔日祭社以後

[illegible]

[illegible]

人家[illegible]より野道より[illegible]

[illegible]

三月

澤道[illegible]

[illegible]

山野并人家より[illegible]

[illegible]

人家乃庭より藤さくらひらけり

[illegible]

四月家より更衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

早苗うえ[illegible]

[illegible]

五月

人家乃宮に間より郭公[illegible]

いくよの人にあいされて郭公やよの物にと立あかしすれん
菖蒲ふかる軒に又人家の葺きあふて此わ
あやめ草あかぬ軒端にかへても世々の月にやとる哉
人家庭有りてことさらなれ
杉の雨ふりてたちまちに人ぬとこ夜ふかしの露に見えみえん
六月
山井の邊に人て納涼ある也 人家あり
永日に春秋ともあはれやられむとへ人夜もすがら月夜に水
野の道乃杜間に夜ふ草しけれ
かの夜乃つきさえもわかれねのお末のとこよ
河の道に六月種しけれ
九月
種しあれむかふ泊みとしふるまい世をもつよみの身にれそ
七月
小野并人家に秋風吹けれ 萩あり

てる月乃ひかりにつれて秋まぬ空に聞す萩乃上風
野も盛に咲て人々集ける
をすてても心の花の色にそめて秋の乃子に手にはなれ行人
春日野に庵ところ
春日山朝日待間乃あけかの空に秋もまつ咲ちる也
八月
人家池の邊に人々観月
てる月のみなそこに水の月乃きよくてとやよの池水
舎坂関路邊に河面
せき水乃けさやまよみかねにかわす世にも月乃宿
田中に人家あり
秋稲の山田乃ほとに露をまつて常陸乃世乃すゑの秋
九月
山中に菊咲ける邊に仙人あり

[illegible]

山野并人家紅葉さかりなれば

[illegible]

[illegible]

十月 海辺より[illegible]

[illegible]

[illegible]

江澤辺より[illegible]

[illegible]

十月 五節会入[illegible]

[illegible]

[illegible]

賀茂社時祭社頭儀式 上中社

[illegible]

十月 四條西市神示儀式

[illegible]

山野樹竹[illegible]

[illegible]

歳[illegible]

[illegible]

法住寺殿御屏風和歌

夏 樹陰納涼

すみなれぬ人はまよはぬ夏の日の木ぬれ分てもとめ

冬 池邊氷

やとりはよ池のうへ氷ふかけれはあさまもんをかけそ

拾遺愚草中末

入道皇太后宮大夫九十賀爲屏風歌

屏風哥十二首 建仁三年八月撰定

春

霞

若菜

花

夏

郭公

五月雨

納涼

秋

左近權中將藤原定家

秋部

月

紅葉

冬

千鳥

氷

雪

[illegible]山乃[illegible]乃[illegible]雪乃[illegible]

家勝四天王流石水御傳

名所御傳子和歌

正四位行左近衛權中將藤原朝臣定家

吉日野

吉日野乃[illegible]

芳野山

みよ[illegible]

之嶋山

[illegible]

[illegible]田山

立田山乃[illegible]

伯耆山

[illegible]

難波浦

[illegible]

信太濱

葦屋里

布引滝

生田杜

若浦

吹上浦

交野

水無瀬川

淀鹿浦

明石浦

志加麻ら

松浦山

同清山

[illegible]

[illegible]

野中清水

[illegible]

海橋立

[illegible]

宮津川

[illegible]

大井川

大井川[illegible]

鳥羽

[illegible]

伏見里

[illegible]

泉川

[illegible]

小倉山

[illegible]

金閣寺

[illegible]

志賀浦

[illegible]

[illegible]山

[illegible]

二見浦

[illegible]

大浜浦

[illegible]

[illegible]浦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]山

佐良之奈里

[illegible]山

富士山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

武蔵野

[illegible]

白川関

[illegible]

阿武隈川

光孝忘却支分承く左道

安達原

宮城野

あ[illegible]

[illegible]

隆竜浦

建暦二年十二月院[illegible]

冬日同詠二十首應　製和歌

従三位行侍従臣藤原朝臣定家上

春十首

[illegible]

恋八首

[illegible]

雜の部

[illegible]

後仁和寺宮月次花鳥詠寄乃之よかる
[illegible]

詠花鳥倭歌 各十二首

正月 柳 泰談藤原

[illegible]

二月 桜

[illegible]

三月 藤

[illegible]

四月 [illegible]

白露乃数乃玉とそ見つるなりけるかも

八月 蘆摘

鶴なくやさ月乃宮乃かるかゆ水なる

六月 常夏

おなしくはけふ乃月なれさ人あきとこ夏乃も

七月 女郎花

秋くれはおもひみなとこ一数やとこ一年乃の

八月 秋草

秋くれぬいつ乃ゝとは思へやそ乃うつ乃ゝ

九月 菊

花とこそ菊乃白りけれ霜乃ゝ秋乃ゝ

十月 紅葉

神無月乃紅乃菊乃ゝ

十一月 枇杷

冬乃ひ八未無乃ゝ

十二月 早梅

冬乃ひとこ乃ゝ乃ゝ

鳥

正月 鶯

春乃ゝ八ゝ乃ゝ

二月 雉

狩人乃ゝ乃ゝ乃ゝ

三月 雲雀

ゝ乃ゝ

五月　時鳥

郭公なくこの夕べ雲まよふ月の海にも

四月　水鶏

[illegible]

六月　鵜

[illegible]

七月　鶺

[illegible]

八月　初雁

[illegible]

九月　鶏

[illegible]

十月　鶯

[illegible]

十一月　千鳥

[illegible]

十二月　水鳥

[illegible]

仁和寺宮五十首
詠五十首和歌

表十二首
和表

民部卿藤原定家

[illegible]

雪中梅

[illegible]

梅色変

[illegible]

沙路梅

[illegible]

春月

[illegible]

岸柳

[illegible]

旅春雨

[illegible]

遠海月

[illegible]

山月

[illegible]

関月

[illegible]

庵月

[illegible]

河歌

[illegible]

夏七首

社卯花

[illegible]

早苗多

[illegible]

里時鳥

[illegible]

思時鳥

[illegible]

衣蘆裙

[illegible]

籬瞿麦

[illegible]

江蛍

[illegible]

秋十二首

早秋

天河[illegible]

萩露

[illegible]

萩風

[illegible]

鶴鳴

[illegible]

山家月

[illegible]

野径月

心さへ秋の空なれば月と共にあはれ深き

旅中月

ふるさとの秋の空なれば月とみるこゝろ

暁虫

ものゝ哀とあはれ月ぞ鳴くなる虫の声

河霧

わたる川霧ものゝ哀とあはれ人ぞ知る

擣衣

秋風ぞ吹くなる衣の音ぞ

夕紅葉

紅葉ぞ散るなる夕の秋の長雨ぞ

残菊

冬七首

釣時雨

秋ぞ暮れ釣り舟ぞ時雨

竹霜

いにしへの世にぞ竹の霜ぞ

池水鳥

水鳥ぞ池の水ぞ

鴛千鳥

千鳥ぞ鴛ぞ

松雪

湖雪

情嵐雪

憲六首

寄雲恋

寄霧恋

道の[illegible]

寄煙恋

寄茅恋

寄島恋

寄枕恋

雜六首

暁述懐

岡中燈

山旅

海旅

[illegible]

[illegible]

寄松祝

[illegible]

権大納言家三十首

詠三十首和歌

早春

民部卿

澤春草

[illegible]

曉梅

[illegible]

花盛山

[illegible]

江上春雲

[illegible]

深夏

[illegible]

聖教

[illegible]

面影橋川

[illegible]

月前萩

[illegible]

夕虫

[illegible]

海邊虫

[illegible]

雨夜蘭

[illegible]

花前樹衣

[illegible]

久[illegible]

[illegible]

深夜千鳥

[illegible]

故郷雪

[illegible]

閑居窓

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋慕

[illegible]

被恋慕

[illegible]

張行

[illegible]

旅宿

[illegible]

振舞

[illegible]

山家松

[illegible]

山家惜

[illegible]

山家芝

[illegible]

寿神祇祝

[illegible]

寿水懐舊

[illegible]

寿を述懐

[illegible]

寛永元年十一月廿六日内侍屏風和歌

月次御屏風十二帖倭歌　定家

正月

元日

[illegible]

若菜

[illegible]

霞

[illegible]

二月

梅

[illegible]

柳

[illegible]

細

[illegible]

三月

桜

山桜花の下ひかりあらそふさくらの[illegible]

歎冬

[illegible]

雁

[illegible]

四月

更衣

[illegible]

葵

[illegible]

早苗

小山田[illegible]

八月

昌蒲

[illegible]

時鳥

[illegible]

衣更

[illegible]

六月

山井

[illegible]

納涼

[illegible]

六月祓

[illegible]

七月

秋風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月

[illegible]

月

[illegible]

[illegible]

九月

菊

[illegible]

[illegible]

田家

[illegible]

紅葉

[illegible]

十月

水鳥

[illegible]

千鳥

[illegible]

細代

[illegible]

十一月

霜

[illegible]

鷹狩

[illegible]

炭竈

[illegible]

十二月

氷

[illegible]

雪

[illegible]

歳暮

[illegible]

[illegible]御屏風

石清水行時祭

[illegible]

重陽宴

[illegible]

拾遺愚草下

部類第一

春

建久元年夏百首家の会 頭名所 春二首

元中志賀浦

氷ゐ[illegible]

建仁元年正月七日院の年始の海[illegible]

[illegible]日初春祝

[illegible]

松間雪

[illegible]

湘夷草

[illegible]

義久元年七月内裏会十首内野経朝
[illegible]
正応二年九月院初度会十首内
[illegible]
雪間花菜
[illegible]
若後雨晴
[illegible]
初春
[illegible]
霞中梅
[illegible]
湖辺梅
[illegible]

[illegible]
旅宿梅
[illegible]
[illegible]
建保四年閏六月内裏会十首中
[illegible]
土御門内大臣家会 春部有條卿 春部頭六首
中梅香袖
[illegible]
翠梅誰家
[illegible]

内裏の会に水辺の柳

[illegible]

同題　家會

[illegible]

江上雨後　内裏の会

[illegible]

建保二年二月内裏歌合和歌

[illegible]

建仁元年三月盡日の会　雨後の樹

[illegible]

霧中の花

[illegible]

内裏歌合　春曙　二首中

[illegible]

内裏の会　春の夜

[illegible]

海辺の梅

[illegible]

[illegible]　暁梅

[illegible]

[illegible]

雪山の花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花深山霞

[illegible]

正治二年三月[illegible]家合暁霞

初春月

[illegible]

建保三年五月[illegible]春山霞

[illegible]

建仁二年三月三[illegible]

[illegible]

[illegible]

秀[illegible]

大方[illegible]

三宮十[illegible]

[illegible]

[illegible]

建久[illegible]

[illegible]

同六年二月同家[illegible]

[illegible]

花[illegible]

[illegible]

なし

大方の春にをくれぬしひゆくの山桜まちやらん

殷富門院皇后宮と申し時おほせられて給はりし

権亮大輔すゝめさせて夕花といふ題を

よみしに

つれなくも海の山路は桜花もわかてふぶきにてなるや

建久七年三月宰相中将家にて山花盛久

といふ題を

春ごとの花はわかねど心から袖にぞ匂ふ香

中宮女房あまた人々よみし時に

見ぬ人にさそはむ花を今年さへ心なき空の嵐かな

大内の花をもさかりなりし門を蔵人時をかへりてすくられ

春風くみちよまりてものけふちゆく也

建保五年四月十四日院にて庚申五首春夜之

山の端に月をのこしてもかなしき春ぞうらみし火

建保元年内裏詩歌合山中花夕

附風せし久しかりけむ桜みよの春の夕べ

桜わかれの下よりふもとの一夜やとめし春の山人

建保二年内裏詩歌合河上花

花の色はそれぬ水にさそはれて流るゝ河也

みわたせば春の川なみわかれて花をそへつむせの坂本

内裏歌合詠花

庭もせにつもる桜もわかしき風にまかせて

同詩歌合山居春曙 二首之中

[illegible]

建保四年閏六月内侍重長の会春十首の内

[illegible]

正治二年九月十首の会春の花

[illegible]

院の詩の会にてめされ元久二年六月水の上望

文をりわかされ歌ありて若草とうたはれたる

[illegible]

義久元年七月内侍重長の会春山花

山人の庵にいくよれぬのゆふ風よもはれまりのの

暮春雨

[illegible]

[illegible]

義久三年三月

[illegible]

[illegible]

同三月八日内侍重長の会春野花

[illegible]

海辺花

[illegible]

河上花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

庵上花

月ゆきかよふ人てあるらんとひはるる

同中花

門の内世をはるかに見やるとしいく春とかはるらん

權大納言家の内侍の中間の花 貞応三年

山ほとゝきすの実りの頃はいかなる人にかはるらん

土佐門内侍家の会 水無瀬殿 嘉元百

あるかの門出の春の日はみなれし水とうき春とかはる

五月歌

山吹のうつろふ夏のあさてこの春のかたみとぞ見る

同中花

三月中旬

山ほとゝきすの夏の夜の夢はかりなる春の夜の夢

山家花

春をかぎりとかはるとはいかなる人にかはるらん

三位中将公衡卿家にて張行三月廿

いかなる人にかはるらん春の夕暮のつれなくもかな

夏

春暮思花

つれなくもかはるとはいかなる人にかはるらん

鄙公卿

春のかぎりとかはるとはいかなる人にかはるらん

土御門内大臣家にて張行時人百首

春のかぎりとかはるとはいかなる人にかはるらん

嘉元二年祭使にあひてよめるうた
よみ侍りし
むかしやうらみの人のかけし衣はまたなにかとへしのふ
ふし　　　　　　　　　　　　　　　　中将忠明朝臣
あやめ草ひきのこしたる人の袖をかけてもなれぬものゝかなしき
建保三年五月和哥所にて歌合に菖蒲
わかむらさきの世のおもひにかけてやさしき草の袖の沢
建久六年二月内大臣家五首哥
菖蒲草人はなにかはしらぬ夕風にとりける軒のあやめ哉
建久二年民部卿経房卿家哥合に郭公
かなしさはまつにかはらぬ郭公月はおなしくまた来ぬる哉
三百六十首哥の中に　　　　　　　　　　　　　為家

とくしきにまつきえぬ菖蒲のあやめ風のかけたる
時すきにけるかな郭公あふ五月雨のおとにおとろかれつゝ
従二位家隆　　二首　菖蒲
まされはなきかぜのはやしのあやめをかけよとやむかしきくらん
郭公
ほとゝきすまた中山こえてなく一声のつらき郭公かな
建仁元年三月五日哥合に時鳥
五月雨のふかきよのくらきにまたれぬる郭公かな
正治二年二月内大臣家三の哥合時鳥
郭公あかぬ時の声をきゝてもなくなるよりもこゝろそふ
五月雨
玉水の影もうつらぬ沢水にさみたれてなかるゝ川のうさ

[illegible]

建仁二年三月六首歌合

[illegible]

[illegible]

秀能入首歌中部

建保四年閏六月内裏歌合十首 中夜

部

[illegible]

建久元年七月内裏歌合 暁部

部

[illegible]

水風

[illegible]

建保六年四月十四日庚申入首 夜暁

[illegible]

建保二年六月和歌所歌合

門田吹かもけれの風のすゝ[illegible]

水風吹添

[illegible]

建久五年夏九十将家歌合 三四川夜

[illegible]

名所夜月

[illegible]

山納涼

夏月暑さをさけてみな山にいりて涼をとる

権大納言家通卿

みなかみ入あり川の水の流れ

建仁二年六月みなもとの

ときく六月頃とて海にうかべて作製あり在れ

物ものよ川上の月

海辺蛍

海のうへの月かたぶくかたぶくまでかりの蛍

山家松風

おもひやる山ぢはるかなるかぜの音

建仁元年三月盡日の会に水上晩涼

ながれ出る井の水にすみまさる山の月

物語の会に水の源に月秋

雪ふる山ぢはるかなるかぜの音

建保四年閏六月内裏の会に

夏ながらみなそこまでとどくかぜの音

秋

松尾社合に初秋風

建暦三年

あきかぜのふくにつけてもいとはるる

建久六年夏左大将家の会に秋の文議歌

秋ぞあるはぎの花ちるかぜのおとに

陸奥国

世やいかさま秋やいかさまとそなたにかかる神社合

建保三年七夕内裏七首

天河水けいさまかたらるひさむしたるかこうしん

わかれをしのうきにつかれをしてはしたるかこうしん

天川くらの波の秋名をもとしたかはしたるかこうしん

玉にのもすもゆるとそうつるさかはしたるかこうしん

あまのくるもの葉をしたるかこうしん

天河わかれをしのうきにつかれをしてはしたるかこうしん

玉河めくらさやをもかけしたるかこうしん

建久六年二月さたかの家の歌合

秋はいつとも葉をもとるかこうしん

同中納言

沒年不詳

元久元年七月宮内卿

山風

西行二年九月院初度の合

山風

建保元年内裏の合

秋月

同年閏八月内裏の合

秋

兼久元年内裏の合

秋夕

夕されの雲は高き秋の神すらぬしやとられぬ

建永元年七月和歌所合歌

頭かくす下葉の秋の露はらはせ萩のえだをゆく

海辺月

ひかりをも神は月はのつくるあるあきの海の道

建久八年秋歌合

あまのつりなわをくるしきは秋の月

秋の月

秋のくれ月のあらしの吹あれぬとはたれ人の山

拾遺愚抄

月の光は凡又冷

月前松

月前擣衣

月前擣衣

秋風は衣をうちつるひの文月をのみ山もと

海辺秋月

月は海に伊勢の浦萩さくひとりあるき波に秋を待

湖上月明

さざなみやちりはてて後は山の月

正治二年九月院初度歌合

月前擣衣

建仁元年八月十五夜歌合

月前松風

夕すわたる海より月はとりあつめ異所所見

月前擣衣

秋風は衣をうちつるひの文月をのみ山もと

海辺秋月

月は海に伊勢の浦萩さくひとりあるき波に秋を待

湖上月明

さざなみやちりはてて後は山の月

古寺歳月

[illegible]

源山曉月

[illegible]

野月落源

[illegible]

田家見月

[illegible]

河月似氷

[illegible]

建保三年八月十三夜内裏月前竹風

[illegible]

建久二年法皇栖霞寺に御幸の時詩歌

[illegible]

九月十三夜内裏にて山路月

[illegible]

建保二年九月十三夜内裏月前風

[illegible]

建保六年八月十三日　内裏中殿宴

秋夜侍　宴同詠池月久明

應　製和竹

参議三位行民部卿兼伊豫權守臣藤原朝臣家　上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

名所月

[illegible]

同[illegible]

八月十五夜詠歌月題　　刻衣和歌

正四位下行左近衛権中将兼義[illegible]医[illegible]節[illegible]家　上

[illegible]

建仁元年三月歌合　湖上秋月

[illegible]

建保四年閏六月内裏歌合　秋

[illegible]

建暦三年九月内裏歌合　寒虫

[illegible]

月前擣衣

[illegible]

月前鹿

[illegible]

建永元年七月十三日和歌所歌合　湖月

[illegible]

元久元年七月宇治殿水月

[illegible]

正治二年九月家歌合　山月

[illegible]

建暦三年九月内裏歌合　源山月

[illegible]

建久七年九月十三夜内大臣家歌合

秋の月

初冬月

[illegible]

停年月

秋の月

[illegible]

[illegible]

入後月

月

内裏

[illegible]

建保三年九月和歌所歌合

[illegible]

建永元年七月十三日和歌所歌合

[illegible]

正治二年二月内大臣家歌合

[illegible]

元久元年七月[illegible]

[illegible]

建仁二年三月六首秋歌

[illegible]

建暦三年九月十三夜内裏歌合

[illegible]

吉山伝

秋しのぶ夕日さすかの[illegible]

元久二年後院詩歌合山路秋行

[illegible]

久附日本紀[illegible]

建仁三年和歌所百首歌

[illegible]

三条[illegible]

[illegible]

久[illegible]

[illegible]

建久六年秋比大将殿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋旅

さしてゆくすゑもしらぬたびのそらに[illegible]

秋雨

[illegible]

秋情

[illegible]

秋恋

[illegible]

同七年の秋内大臣[illegible]

[illegible]

と[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋月

秋雨

秋花

秋月

秋虫

秋蝉

秋水

秋霜

秋祝

秋擬

秋恋

秋思

老て世にあらんかぎりそのまゝに秋更ぬるひのもの月の光

秋雜

ひゝ川海や秋のさゝ舟はなれ山ぬけ出るあはの潟

仁和寺法師

義久二年八月秋歌十首

秋の夕べ所はいづくの浦ぞ伊勢の山ゝ陰うかべて

秋田

こゝ言の秋風そよ〳〵吹なびく田ゐ見こそ秋

秋雜

なにあはれ山ぬけ出る田のゝ岸ゝ穂のうへ

秋雜

世やうゝ寒くなるひとゝ光ぬ秋の村雨

秋祝

寄時雨祝

みさゝ秋山はまさに言はれ代いみ分

秋恋

こゝろはをちなるよりすゝ秋ゝ恋るれて思ひ出る神

秋夜

風さゝ萩乃葉ふくゝとてみ夜ぬらそ袖ぬ

秋旅

波くゝ神のうゝの秋月常ゝ陸ゝ波つゝ立ゝん

秋恨

心なてゝ月ゝ山ゝ秋風いそゝ袖ぬ

秋雜

たゝれゝ鹿くゝ秋風ゝ夜ゝ月の秋ゝ

内裏秋十首

夏ながらめぐりあひぬるかぎりとて
なつかしきかな世の人のなかむらん
つきかげ秋の月ぞ変ぬる
やどれとめぐるる神の秋ぞ
なかめてぞ秋のよの月
ながめて秋ぞ秋のよの月
ながめつる月ぞ秋の夜の月
いくとせ秋の神ぞ
秋の夜の月
ながめつる山ぞ秋の夜の月
山姫のすみぞ秋の夜の月

建保二年みなづきの比

秋十首

ながめつる山ぞ秋の夜の月
秋の夜の月
秋の夜の月
秋の夜の月
秋の夜の月
秋の夜の月
秋の夜の月
秋の夜の月
秋の夜の月
秋の夜の月

兼久元年七月内裏歌合同勝負

[illegible]

夜和歌

[illegible]

同題

[illegible]

依月思秋

[illegible]

兼久元年九月日左方会とて[illegible]

[illegible]

遠山曉望

[illegible]

暮天同鴈

[illegible]

和歌

[illegible]

建保六年四月十四日庚申五首秋洞

小倉山[illegible]

兼元三年九月新羅社会とて人々

[illegible]

[illegible]

四重[illegible]

[illegible]

建保二年九月十三夜内裏暮山和歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

兼元四年十月家長卿院日吉社へ詣ぜ
へさるべし　この九人詠歌
もらるべし　歌題てらるべきこと
詠歌　　私家
いつかわがなを遂げわが世無月歌海ゆ
きを待ち終ぬ
吹風のやどす木葉ぞ下つ霜とさそう庭ぞ
建保二年内宣長三首詠歌
山の井は清らけを深くそ思ひ入る
水鳥
池すむ水鳥の月ぞあらぬ
き草

新宮の尾花ぞ海ゆ思ひ
正治二年十月一日院御會
のさ月の多くへらつ
建仁元年三月歌日合
俊茅生やはつ葉末乃冬
建保四年閑六月内宣長
よさくらみと新
三文十人首冬
旅宮月若やはさ月
とくさ花か山の
正治元年十月七日二条殿新宮合
冬ものく詠歌

[illegible]

文治三年冬侍従公仲よ高也卿 冬十首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山家秋夜

[illegible]

閑居雪朝

[illegible]

水鳥多

[illegible]

[illegible]

湖上冬月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正治二年九月[illegible]

[illegible]

同年内裏[illegible]頭中将通具朝臣人々[illegible]

[illegible]

[illegible]

建仁二年三月六日冬[illegible]

[illegible]

建保四年内裏[illegible]山月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行路雪

冬の日の行路にしるべもなくまどわるる人を雪ぞ降りける

建仁元年十二月八日八幡宮の会社頭に

雪の中に梅の花を折りて

梅の花ぬれてもとめぬ人ぞ知る雪の下にぞ春は来にける

月前雪

吹みだるる雪の下風ふけばこそ月にぞ花の散りまがへける

建久元年七月内裏の会冬氷月

冬の月氷にとぢし川水にうつる影さへ冴ぬるかな

社頭雪

しるべ[illegible]

正治二年二月五首家の会庭雪

[illegible]

建仁元年三月歌合雪似白梅

[illegible]

桜咲雪詩の会雪中松樹低

[illegible]

[illegible]

建保内裏の会十首中冬

[illegible]

正治二年九月院初度の会暁雪

わけのうらこそ春のかぜ梅すはなれてもわがさかぬ宮

建久六年九月将家の会に源宰相

宮内卿の所の下の枝にかかるまつ梅のもとにて

文治六年十二月後鳥羽院の御言葉は宮中

首尾禁庭宮

さしのぼるみかつきの梅宮路にて素秋みちるのこの月

和泉宮

山人のひとり勢ひやこれみるさら志かぜの吹ぬ

山家宮

梅の人の梅のもとにたちぬん新しき枝を宮のうち

雅宮

宮のうちにうるはしきかの色を新しきうち

社頭宮

ちはやふる山ぶきの年ぬ宮路にて素秋あさぼらけ

古寺宮

ふるさとの月のみかたひとりあかしの新しき海ぶつりの宮

宮中感人

かさしてもたのもしきかの宮のもとにてつやみちくさしてん

宮中述懐

千歳ふる年ふるの秋ふるの世の所の宮とのもと

宮中遠望

梅の花宮の内人のこの所の

宮中旅行

ふるさとの宮にかくれぬ宮の所にて

建保六年　庚申　冬夕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 兼久三年

賀

建保二年九月十四日和歌所月詠の秋

建仁元年[illegible]

[illegible]

建永元年八月十六夜[illegible]

[illegible]

正治二年二月[illegible]

[illegible]

建久六年[illegible]

去日山[illegible]

建仁元年三月[illegible]

[illegible]

正治二年九月[illegible]

[illegible]

[illegible]

建仁三年十月[illegible]

[illegible]

[illegible]

兼久二年行宗の会

わの浦のさきのけしきは秋ふかし　月はいつのの代はあはれ

仁和寺宮にて寄松祝

ときしらぬ月のいつこもかはらぬ代をみてぞ

建保三年内大臣の会松祝年

あはれ家ゆいく世を経とさしてあはれ家ゆ

一条家にて

七十代にあはれ家ゆ我はいく頭とかぞへ

夕松祝　和家イ

松の風乃みてわよ　ちとへてあはれ

建暦二年きさのみやの会　次日

中将雅経朝臣

きみ　ちとせ　こゝろ　ひ　ま　ま　ま　ま

ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ゆ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ゆ　ま　ま　ま　ま

[illegible]

為家元服人間[illegible]
[illegible]

神のうちなるひるはしらに成よあまたん
[illegible]

神せんぐうにこもる所なるあまの海にてしまあり[illegible]
あるー中将のよとあわさうあるつりあり
[illegible]
[illegible]

[illegible]

年ぶのそこうみて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

宮内卿

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 宮内卿

[illegible]

[illegible]

水無瀬殿[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文肉卿乃子みよさ[illegible]

[illegible]

人[illegible]

右之情書乃子孔少將[illegible]

[illegible]

[illegible]

日吉祢宜[illegible]

[illegible]

[illegible]

百[illegible]八十[illegible]

元久三年正月[illegible]陽院殿　初度

應製

遊龍[illegible]久

[illegible]

[illegible]

[illegible]

恋

建仁二年六月水無瀬殿御百首

[illegible]

[illegible]

恋

[illegible]

恋

[illegible]

恋

[illegible]

恋

[illegible]

夏恋

郭公なくなくこゑ恋ひて鳴やさ月のあやめ草

秋恋

ながめをも月やはかなく秋ぞなるひとへに人を恨ぎ

久恋

ながこゑ恋ひ水さへ恋ひぬもとひとへに人を恨わび

暁恋

ぬるかなる暁ぬるかなる暁の月

雪恋

ふるゆきはさえ夕べ雪と来るのむ

霧中恋

霧ぬ不逢恋

山家恋

鹿鳴さとのぬ霧のたちしひぬ人を待とてあ

恋

ふるさとは待ぬ時の表れぬ門のふるさの雪

旅宿恋

門ぬ表れぬ時ぬ月ぬ表れぬ門ぬ表ぬ人

関路恋

ぬ関ぬ表ぬ時ぬ立ぬ関ぬ表ぬ月ぬ表ぬ

海恋

門ぬ表ぬ海の面ぬ表ぬ海の面ぬ表ぬ

河恋

ぬ表ぬ川ぬ表ぬ表ぬ表ぬ表ぬ表ぬ

寧兩意

[illegible]

寧風意

[illegible]

建久六年[illegible]

[illegible]

建仁元年三月晦日

人[illegible]

正治二年二月[illegible]

[illegible]

[illegible]

元久元年七月

[illegible]

建仁二年三月六日[illegible]中意

[illegible]

愚不令意 兼久岡四月四日 和行[illegible]

[illegible]

兼元四年九月栗田宮新令寧月意

[illegible]

三宮十五首意新

[illegible]

[illegible]

建保六年四月庚申 久意

[illegible]

建永元年七月和哥不被忌憲 白左

[illegible]

建暦三年三月内裏憲哥 三首

[illegible]

建暦三年九月十三家内裏哥合旅宿憲

[illegible]

建保四年閏六月内裏哥合憲

[illegible]

九月十三家内裏寄海憲

人心[illegible]

建保四年内裏寄蘆憲

[illegible]

正治元年冬[illegible]

[illegible]

住吉哥合旅宿憲

[illegible]

憲不離身[illegible]

[illegible]

仁和寺宮花[illegible]

[illegible]

建久七年内大臣家[illegible]

北白河院御歌 憶人 月前思

神なびの乃とむ乃山の峯にはの月乃入さ乃へ乃ゝ
[illegible]

中納言[illegible]

建久六年二月九日大將家[illegible]

建保五年[illegible]家六首会 行路人 憶

山家夕憶

[illegible]

兼久二年八月十五日門院[illegible]

寄名所恋 紅葉家

恋待恋

寄霊恋

隔遠路恋

吉山立　行方沼そば

ゐせきの山ずりの夕日新しやへとあかねのこそ時
貞永元年七月大殿立給　意十首寄衣意
秋夜の夜ふけ衣をうつせすれはとゆめ神ぬるとゆめ
寄鏡立
清水はもとのみなもとしあらねはやそきは
寄弓立
ちはやふるかみのゆきかけの夏ふくやまの岡ゆふ
寄玉立
緒をくりかへしみのつるをたえぬ神代の
寄枕立
ひとりねるこよひのかたしきの月日ふる
寄帯立
いなせんじてつれなきかたはよりわかれ
寄絲立
夜ふけ乃ひとりもなれぬ袖のみなれそ
寄笛立
ふるさとの夏はやしなれぬ今てもきものみ
寄弁立
ゐるこ乃神ぬしはなくふるこそつらん
寄細立
人こそあるあるある

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつかの新勅撰の仲よそうの人のもとへ
おわかれのあつさはわからねはなきなるのふ
いとせんさいとみるれはそてをつくこころはかり
あすはまつひあしとねはまつ別れは花さくさ
こころ新しのうちもきわみるれはなかあるう袖はてし紅
思ふとも立とも知ぬつれなさはいく秋恋ぬ
思ふれは立とはなるは袖はてしく秋恋ぬ
せき俺ぬとうさ恋ぬ人わかれてぬせは恋
名九川行先はよあ[illegible]られてあくそみん
なひやれるのもとひとそはかりの袖

ひのうさのもとつよ中あてとわ行れさ袖はらん
その人乃ものこころわ[illegible]
ものひとはいとは伝はるはなはるの也
ぬし

こそ[illegible]ふるは人はなひとは松山
恋ふとかんかくの[illegible]
けの海というのはるさ[illegible]
[illegible]
別ての[illegible]
[illegible]
をさのよゆさはれす人
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜

旅

伊勢勅使の[illegible]

山中乃桜さかりわすれぬ[illegible]

えそすきぬ[illegible]

宮仕はまよ秋旅

[illegible]

建暦三年八月内裏合山暁月

やまの月[illegible]

[illegible]

[illegible]

建仁元年秋和歌所合霧中言

[illegible]

山家松

つれづれと雨ふりくらす山路にあはれ心とどめぬ

正応元年冬左大臣家十首会霧中眺望

いつこまでとはいはやまぢはるかにみしのみぞあはれ

同二年二月同家会秋旅

ひとすがらなほすみなれぬ山の嶺に秋をぞ

建仁二年三月六日旅

神よりはけさぞ別れの袖なれぬ

建永元年秋和哥所会

はるばるとこしらぬ山路さかしゆゑ色ぞ見ぬ白雲

建保右大臣家会霧中

ちりぬるのこずえにまぢかく雨すぎて松風

拾遺愚詠会霧中眺望

秋の月のこずえ雨すぎて松風にうつる遠の白雲

うち寄せやすのくまのはまぢはるかに秋風ぞ

建仁元年十二月八幡宮会旅宿

ちはやぶる八幡の瀬のあけぬれば山のゆあけぬ

母の御ぶしの松ぬしの岩ぬれ山人のかりて

中堂にて

雪ふる比えぬ山人のかりて

雪ふる比えぬ山のおくつるさとに

こゑのみうちつけ侍て

ふるとあれ山ゆゆしきゆゑ雨ふりぬ

こしらひとりてひとりとの意ぬいまさくうわ

御遊

うら吹ぬ秋の風ぬ

拾遺愚詠会旅宿

[illegible]

建久七年内大臣家歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

述懷　三首　建永元年秋和哥所

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義元のこうりゃう南しわたりを給わりてうさ
て国つゝせしおくり
あれさよのむすめ[illegible]こそ南さき[illegible]
照ひかりうさ南りわか名のにて人のたまやくしひさしゐん
[illegible]
年梅うさ関西[illegible]
義久三年南しわめうれ　西懐新
永けて〻より道のむすれ永むしひたそなけくさし南
為家元勝しうま去かゆやして去庫以家也
つけ[illegible]
[illegible]
ゆるうしうさ[illegible]れ[illegible]
家也

道[illegible]
京宮深月乃つのそよ下稲荷淺ゆく紀言
月果をあり[illegible]
[illegible]
[illegible]
人のうしひうそるして加階ゆうれ係うさ
建久六年正月叙位[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

四條一番はなし時參日越中侍從舞人にて
内侍にて[illegible]
[illegible]
やう　はさまの日
山のひのもとにて[illegible]
小侍從よゆわあるへのむしろにつくれる
うらとしてけやきとりしくるの人にて
[illegible]
[illegible]
やう
まれとしられぬ歌とて
西の上人みなとそれ[illegible]
小侍從
[illegible]
やう

[illegible]
[illegible]
やう
山[illegible]
上人
[illegible]
又
[illegible]
又
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むさしの
はるのはつ水の
ながれあまる
ゆきのしたにも
ねをはやすらん

ふるさとの
はるのはつ水
ながれあまる
ゆきのしたにも
ねをはやすらん

むさしの
はるのはつ水
ながれあまる
ゆきのしたにも
ねをはやすらん

ふるさと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ち年ハみぬけう乃ゆ[illegible]そして枕よ似う[illegible]
ゆてこの世のかと遠ゆりて出やのあ[illegible]をみぬる
建久元年二月廿六日西行上人勇南わる
くらおうわみ[illegible]れなわくうよ同て三位中将
のもと
ゆち月乃ゆうふ[illegible]ぬ宮れとさんくゆ[illegible]ゆ[illegible]
上人先年涙云
称うくい乗のトして[illegible]むこの月れち
月のころ　と年廿六日申日
かゑ
ゆくさ乗ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
後京極殿御歌ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

わくる日宮間[illegible]
ゆう[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆう[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

いつまでか世にいく四方の風をまつ人
あまさかる命はかりなるものなれど物はつれなく心をつくす
清めぬ七みれく同の御陵にうえ人の立て来ぬ

慈俊

恋俊

せきもあへぬなみだをかこつ月の影
紅のおもかげ月に面影をうつしてとまる袖の涙
袖乃うらにしく
うつれぬむの一念のうらにかはりてうらにかはりてうらにかはりて

[illegible]

又の年三月七日ゝよ出家後一つゝ月日大僧
正十首れ[illegible]

[illegible]

建永元年七月和哥所寄風懐舊
月日くゝ秋は木葉と[illegible]

西中一無常

[illegible]

六条三位家衡卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義元四年三月七日大将家

[illegible]

大将殿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義久元年六月廿五日安院御忌日蓮華心院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つさの日

[illegible]

老菴翁五の[illegible]

[illegible]

[illegible]

首八幡の宮合して八社の面影社頭荒廃
よむるやしろ井よりをいたりてはるかなる
住吉并住羅社よ求子のうらみてうめて
まつ屋さすし初宮ーー六てまつわし
住よ松ひ梅さ住よ、のけ屋さうし
天う世ハうさみのりれくくとよ松ゆ秋ひさ住
義元二年乃秋か将具親二社て宮海と
ーーーー中よ住吉
一松りるくる松ちこのはよ四ま引てら社松蓬
うさうあ松乃ちさうみ面口ありくけくわみくうあ
廣田
あくれひと日りるさ乃源よいのりてよ七八ひさ家社ひ

海のうしむ里れちるへ乃いくよあ松りよへてみうめりる
ーーりりーありひまる松小野ま住ていのわりよて
あくりるあ赤れ小野ま住ていれてなかるあやあ人
そのまりわちるうんくるうん住ら
日吉社よこまりわて野ひつけるまれ中ま
み義の赤ま野りくあ今ま心ちるりの野ひる
くーと世をこうれハまうぬうれ住ーーあーーよ方やまり日南
うへやうなやるみうさと新久人赤ま面ねてねとうまつる
持ちるりうあれくそうのうあ赤の中ま人の中ま
義久元年九月日吉宮合して内ちわの
住ま中ーーー六首中社以仏風
住ま中ーーー六首中社以仏風

湖上晩望

みなのうらやあさぎりのまよりあらはれぬ遠浦の雲乃はたてまつりて

中ゝなか宮寄社祝

ちとせのあきのくものみやゆきかよふ代のあきらけさ

川月

きよみかた八景やとゝめむさゝなみの水よ表彩

山家月

みやまきりのはるかよりこゑ

新宮海邊殘月

月はまのひとつまつ天の戸あけすゑ月行

庵上冬菊

菊とゝのあきのあとのあさ霜秋乃白菊

曉聞竹風

あけぬるかのうらかぜよ代をこゆる

那智深山風

ゆのうらのあまのつりしをみ山ゝ

湖間月

やうらのひかりをしの

ゆ

遠近落葉

ちりぬるはの迎よりあらぬ

新宮

月みてゝ海をわたる

遠近落葉

ちりぬるはのこゝろ

若浦波

りろ人の[illegible]

道のかの　山海月

袖の[illegible]

曉初雪

冬ふけさ[illegible]

[illegible]山紅葉

みやこ[illegible]

海邊冬月

[illegible]

川邊落葉

[illegible]

旅宿冬月

[illegible]

羇中寒

冬月

[illegible]

松風イ

夕氷

[illegible]

釋教

[illegible]

[illegible]

[illegible]

力

作

田

縁

果

報

化城喩品 六

人乃為也 仏

報恩寺又百才子 仏

同會人記 仏

大師勸進住吉一 仏

報恩寺提婆 仏

[illegible]

報恩會勸持不

[illegible]

涌出不

[illegible]

分別功德不

[illegible]

屬累不

[illegible]

七又十三年の忌日より遺言の[illegible]人

くらべて法華経供養一部より數五不

この[illegible]

律師献曰[illegible]

[illegible]

毋の周忌より法華六部所つくりて

供養す一部の表紙より終りまで

一奏

[illegible]

二奏

[illegible]

三奏

[illegible]

四奏

[illegible]

五奏

[illegible]

六奏

[illegible]

七奏

[illegible]

八奏

歴劫乃弘誓乃海よ身口意生死乃海をわたり

無量義經

[illegible]

善賢經

[illegible]

心經

[illegible]

無量義經の心經人のよのなかの

[illegible]

[illegible]

解脱房の[illegible]

[illegible]の花菊のあさ露やしらぬ[illegible]

西行懐舊

[illegible]

金剛般若心經

[illegible]

金光明家勝王經王法正論不易國内五人盛衰

利益

二条后

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]月前念佛　非人教題依追之人在其

[illegible]

草庵忘帰

[illegible]

暁天懐舊

[illegible]

落葉觀月

[illegible]

旅宿時雨

[illegible]

船中述懐

[illegible]

厭離穢土

[illegible]

欣求浄土

[illegible]

掬無井氷言志

[illegible]

於新院精舎昂事

[illegible]

遁世乃至閑居家長朝臣

[illegible]

同時梅窓へ送

春の山高くのみちる月のけ春み世紙とやてうん

亀一

やみのうちよりきき世の

芳のさかりぬるとく

てしさはられ

ありあけの

月